

# 愛されて育つ

聖句「あなたがたは  
神に愛されている子どもです」  
—エフェソの信徒への手紙5章1節

# 部会だより

キリスト教  
保育連盟  
神奈川部会

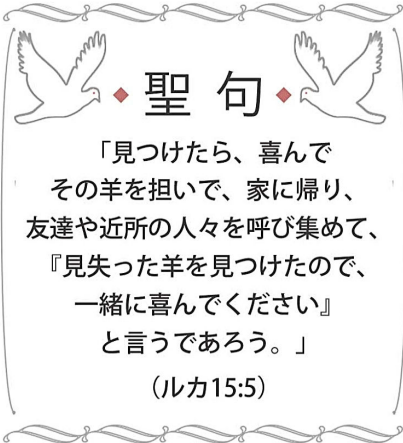
2018年2月7日  
第133号



## 「光の子として 歩ませていただく」

白百合光の子幼稚園園長  
清水ヶ丘教会牧師 中島 聡

キリスト教幼児教育・保育の施設の園訓、建学の精神によく「光の子」が掲げられます。神奈川部会の今年度の主題聖句エフェソ五・一の結びとなる同五・八「光の子として歩みなさい。」から与えられている大切な言葉であり、私たちが目指すべき教育・保育の頂であると言えます。では、「光の子」とはどのような子どもなのでしょう？同五・一〜八によれば、「愛によつて歩む人」、「聖なる者」とあり、思わず「なんて、素晴らしい人だ！」と叫びそうですが、「光の子」と同様、具体的



### ◆ 聖 句 ◆

「見つけたら、喜んで  
その羊を担いで、家に帰り、  
友達や近所の人々を呼び集めて、  
『見失った羊を見つけたので、  
一緒に喜んでください』  
と言うであろう。」  
(ルカ15:5)

ではありませんので、聖書から教えて頂きたいと願い、「迷い出た羊のとえ」(マタイ一八・一二〜一四、ルカ二五・四〜七)が示されました。百匹の羊を飼っている人が、一匹いないことに気づくと、九十九匹を残しておいてその一匹を見つけ出すまで捜し続ける。そして見つかったら皆と大いに喜ぶ、というお話です。

この譬えに対して、幾つもの感想が持たれます。「真面目に飼い主の側にいた九十九匹がいい迷惑だ」、「さがしている間に九十九匹に何かあったらどうするの」、「迷い子にならないように気をつけよう」、「イエス様って優しい方だな」、いろいろありますが、「私もイエス様のように一匹をさがし出す、一人の子どもを大切にしよう」と教えられる。「愛によつて歩む人」と教えられる。

さて、「光の子とはどのような子どもか？」と問いましたが、光の子は子どもだけはなく、私たち大人のことでもあり、私たち保育者が光の子、すなわち「愛によつて歩む人」、「聖なる者」であってこそ、子どもたちを育んでいけることに気づかされます。

目の前にいる子どもたち一人一人が迷い出ないように大切に守り、貴

迷い出ることがあれば、どこまでもさがし出し、皆と喜ぶ。

しかし、「言うは易し」ですね。次々と押し寄せ来る日々のカリキュラムに諸行事、ケガも流行り病もあり、大変な現場の中でも難しいことです。

しかし！今年度の主題聖句「あなたがたは神に愛されている子ども(月齢的な子どもではなく絶対的に親に愛される親子関係の意なので)の信仰に立つ時に、「イエス様に愛されているから愛せる」保育者とならせていただくことができるのです。ですから私たちは朝ごとに祈るのです。

間もなく新年度を迎える時、年長さんを小学校に送り出し、すべての子どもたちを一つ上のクラスに送るにあたって、もう一度、二〇一七年度の主題聖句を胸に日々祈りあい、支えあって、光の子である子どもたちを育むことができますように、私たち自身「光の子」として歩ませていただきたいと願います。部会の全園に主の豊かな祝福が満ち溢れますようにお祈りいたします。



# 園内研修

## 子供にとって

### 最も必要な支援とは

私塾まきば

主任 本荘奈穂美

私達の園は、大磯の山の中腹に位置しております。

鶯の鳴き声で春の朝を迎え、ひぐらしの声で夏の夕涼みをするなど四季折々の自然の恵みに日々感謝しつつ折りの毎日を過ごしております。

園児四十名という小さな園ですが大変個性豊かなお子様たちをお預かりしております。そのため講演会に出席しては園に持ち帰り園内研修をして話し合いの場を設けております。

今回の講演会の大きな課題として子供のbeingを知り子供の成長を支援するということでした。

beingとはその子のありのままの姿を受け入れ発達過程を把握することですが、大人はつい問題行動ばかりに目がいき、目に見える物に対処法を求めてしまいます。しかし否定されない社会的交流の体験ができる

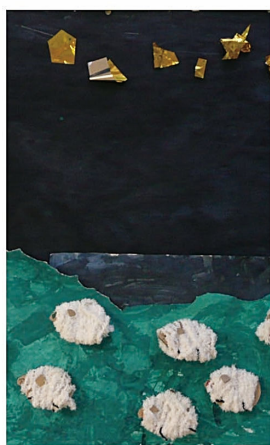
人的発達支援の必要性を改めて強く感じました。

失われた自己尊厳の再生は大人でも困難です。自己尊厳が育つためには失敗しても見放されない安心感が常にあり、その子の存在が認められ社会の中で役に立っていることが実感できる場所が必要です。

この幼児期にしかできない人間教育の中で自尊心を育て自己肯定感を持つてそんな環境づくりに日々努力したいと願っております。

さまざまな発達過程の中にいる子供達の相互の賜物を活かし共通の良いとこを認めあうことのできる保育の重要性を改めて認識できた園内研修でした。

(都立小児医療センター 田中哲氏の講演会を受けて)



## 園内研修について

戸塚ルーテル教会  
附属幼稚園

主任 石黒晶子

園内研修についての原稿依頼を受けた。との連絡を貰い、部会だよりの原稿依頼の順番が随分早い。と思いつながら、これも神様の御心だと強く思わされた。それは、園内研修がここ数年途切れている状態だったからだ。

他園はどうやって時間を取っているのだろうか。新任の為に聖書研究やキリスト教保育についての研修も職員会などで時間を取ってやったりもしたが、横浜市型預かり保育を行う様になつてからは、パート職員を使って職員会の時間を取るのがやっとなつた。必要な打ち合せや確認を日々の保育が始まる前や保育後その時々で時間を取らなから歩んでいる。それでも、毎朝、デボーションが全員で持たれる事は感謝であり、恵みである。いろいろな研修に参加する中で得た物を、個々にその都度、すぐ分ち合ったり、宿泊先での話し合いや、並びながらの協議や話し合い等々。いろんな形で園内？研修ではない状態である。それは研修ではないと言われるかもしれないが、そ

れぞれが課題を持ち、時間を取って園内での研修を、どうしたら出来るかが、我園での課題であり、役職者の仕事だと思ふ。原稿を書きながら与えられた事は、形式に捉われず、

いろいろな形での研修があり、それぞれの園や教師一人一人が「これが」「これから先このような事が」など課題を心に、日々を共に歩む事ではないだろうか。教師に、保育に、又、子どもたち一人ひとりにとって、良きものとなるキリストの香りが放たれる園内・研修を目指していきたいものだ。

紙面を頂き充分な記事が書けず、受けてしまった事を申し訳なく思うと同時に、他の記事がとても楽しみである。早速、園内研修に用いる内容がある事と期待している。



## 園庭改修計画を 通して

百合丘めぐみ幼稚園

副園長 福原由紀

私達の園では、園内研修が予め年間予定に組み込まれてはいませんが、毎週の教師会の折などに、深めたい課題が出るとその都度、日時を設定し直して学びの時を持ちます。時には手を必要としているお子さんについて、担任を通して理解を深めたり、専門の先生をお招きすることもありますが、気楽に音楽やダンス好きの教師が中心となつての体験型の時もあります。

ここ数年、私達には老朽化しつつあるブランコを新しいものにしたという願いがありました。ところがいつそブランコだけでなく、園庭全体を見直しては、という思いがけない話として戻ってきたのです。喜びと共にその様な大事を成していく為には十分準備をして臨まなければ、と教職員に一致する思いが与えられ、早速話し合いが始まりました。ある業者さんにおぼろげな計画をお伝えすると「一緒に話し合いますよ」とおいで下さり、話を伺ったり質問したりする時も与えられました。話し合いは回を重ねる毎に「私達

は、園庭という環境の中で子ども達がどのような体験をし、何を感じ、成長に繋げて欲しいと思つていいのか、園庭は子ども達にとつてどのような場所であるべきなのか」という教師一人ひとりの保育観が問われ、深められていく事に気付かされました。更にお互いに思いを出し合いながら共通理解をする大切な時となり、有意義な今年度の園内研修になつたと思つています。思いがけない計画により保育を振り返ることが出来、心から感謝しています。



## 園内研修について

野毛山幼稚園

教諭 石井園子

本園は、新年度の初日は園内研修で始まります。まず始めにキリスト教保育に携わる者として最も大切な「イエスの子ども観」について、牧師でもある園長から学びます。新任の先生にとつては初めて見聞きすることばかりで、これからどのように子どもたちと向き合っていくのかを考える時となりますし、経験のある者にとつても、初心に戻つて大切なことを改めて考える時となります。また沿革なども学び、先輩の先生方がどのような思いをもって今日まで園を築いてこられたかを伺い知る中で、時代と共に変えていくこと、変えずに守つていかななくてはならない大切なこと、またその責任について考える機会を得ます。

「行事」についても、由来から学びます。そして今年の子どもたちに伝えたいこと、経験してほしいことを話し合います。慣例のように毎年同じ事を繰り返すのと、その都度、子どもたちへのメッセージをもって行うのとは、準備の仕方も掛ける言葉も違つてくると思うのです。

また最近では配慮の必要とする子、アレルギーの子なども増え、知識と専門性が求められます。そのような時は外部から先生をお招きし、具体的な事例に基づいて話しを頂きます。一日の終わりのお茶の時間にはクラスのお出来事、子どもたちのことを報告しあい、シェアすることによって保育の方向性を考えます。お茶の時間も学びの時になっています。こうしてみると、学ぶ機会にとつても恵まれていると感じます。学んだ事を生かし、神様の御心になつた働きができるように、これからも日々の保育につとめたいと思つていきます。



細井保路司祭のご講演を伺って  
早苗幼稚園 中井友美

私が良いことだと思ふことが、誰にとつても良いことなのか。細井保路先生のご講演を伺い、自分を省みる良い機会をいただいたと思います。良いと評価されるに違いないと自負したり、それで安心したりすることが、実は神さまの思いからは遠く離れているかもしれないと、お話のはじめに伺いました。マルコによる福音書のお話は良く知られていますし、子ども達にも「神さまが喜んでくれることは何かな」と話したところある箇所でした。この講演会では、その問いを投げかける私自身が問われていると感じました。

保育者として、子どもたちの心を知りたいと願い、子どもたちの思いに寄り添って保育をしたいと願うものですが、保育者の考えに子どもたちを添わせようとしてしまうことが全くないとは言えません。私が良いと思うことが子どもたちの思いに沿っているかと自問しながら子どもと生活していかなくてはいけないと、あらためて感じました。行事が多く心せわしく過ごした二学期が終わろうとする時期だからこそ、振り返って考えるところです。

日々子どもの心が動かされることを探り、私中心ではなく、神さまの思いがどこにあるのかを考えながら新しい年も歩みたいと思います。「ルピナスさん」という本を紹介してくださいました。誰にも美しいことをするのは、毎日の小さな積み重ねかもしれないし、誰にも気づかれないやさやかなことかもしれない。また、とても時間の掛かることかもしれないが、そこに喜びを見出していかれる私になりたいと思います。

役員会報告 書記 田名網仁

役員会は九月十二日(火)、十一月九日(木)、十二月六日(水)クリスマス礼拝後、二〇一八年一月三十日(火)に開催されました。主なことを報告いたします。

◆夏期講習会を終えて・・・

八月二十二日(火)横浜迎賓館にて、キリスト教保育連盟神奈川部会創立五十周年記念礼拝・式典が行われました。記念講演の講師としてキリスト教保育連盟理事長の片山知子先生にお話をいただき、記念コンサートでは、姫野徹氏のオーボエの音色を楽しみました。来賓六人をお迎えし、二百十六人が参加しました。又、国友淑弘先生に歌の指導をしていただき、皆で声を合わせることもできました。

◆第二回講演会は十一月八日(水)野毛山キリストの教会礼拝堂にてカトリック逗子教会の細井保路先生をお招きし、「クリスマスを迎える心の準備」のテーマでお話しを伺いました。一〇七人が参加しました。

「アドベント」の意味や神様の願う望みは全ての人を救い、幸せを願う

ものであること……とのお話しを通し、感謝と喜びを持ってクリスマス待ち望むひと時となりました。

◆クリスマス礼拝は十二月六日(水)清水ヶ丘教会にて、田園江田幼稚園園長、田園江田教会牧師の宗野鏡子先生よりクリスマスメッセージをいただき、その後、かえで幼稚園とみくに幼稚園の皆さんのリードにより楽しいクリスマスソングの一刻を過ごし、恵みのうちにクリスマスの喜びを分かち合いました。各園からのクリスマス献金二万五千三百円は国境なき医師団、連盟の被災地支援、NCC日本キリスト教協議会、横浜訓盲学院に捧げました。

◆保育環境研修会と全体主任会  
二〇一八年二月七日(水)午後三時～五時に保育環境研修会、その後、全体主任会が、福音幼稚園にて行なわれます。

編集後記

この1年も神さまの導きと見守りの中で、子どもたちの笑顔がたくさん見られ、充実した時を過ごされたことと思います。1年を振り返り、子どもたちの成長を感じられることは大きな喜びです。原稿をお寄せ下さった先生方に感謝すると共に、またここから私たちも学びを得て、保育に励んでいけますようお祈り致します。



◇発行日 2018年2月7日

◇編集者 神奈川部会 広報担当  
認定こども園 捜真幼稚園/黒坂綾子  
認定こども園 関東学院のびのびの園/  
浦尻友紀

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 浅野記念御濠端幼稚園